

風土記の丘の花だより²⁴⁶

今、そしてこれから見られる植物 (2024年7月27日)



今回はまず、ちょっと前には咲いていたけれど、すでに散ってしまった花を2つ紹介します。左はヤマユリです。万葉植物園にはいろいろな園芸種と思われるユリが咲いていましたが、これは ヤマユリっぽい ではなくヤマユリの花です。右はキツネノカミソリです。万葉植物園のほぼ中央のミツマタなどが植わったスペースで開花しました。5年ほど見ていませんでした。前は少し上にあっただのですが、今年はヒョンな所で咲いてくれました。どちらもご覧になった方もおられるでしょうが、ここで紹介できなかつたので、来年に期待してください。

上の2つに比べるととても地味な花です。というよりも花にも見えませんね。これはヤブマオの花です。マオとは、イラクサ科の植物によく使われる名前で、カラムシの別名です。カラムシも同じ仲間で、昔は繊維をとるために栽培もされていた、人とはなじみ深い植物です。ヤブマオは藪の日陰に生えるように思いますが、かんかん照りの所でも普通に生えています。大きな葉はシソ (大葉) のようにも見えますね。



これはカタバミです。ハートを3つ合わせたような葉が特徴です。スマホで「かたばみ」と入力したら「酢漿」という難しい漢字に変換されました。でも、普通は「片食み」という漢字を充てると思います。それは、カタバミは夜になるとハート型の葉が半分に閉じて、まるで片方を虫に食われたように見えるからだそうです。葉の色はいろいろあって、写真のような赤っぽいものをウスアカカタバミ、もっと赤いものをアカカタバミなどと言う人もいます。



これはシロバナサクラタデです。「蓼食う虫も好きずき」のタデの仲間です。水辺が好きで、万葉植物園では水鉢に植えています。大池の畔にも大きな群生が見られます。(でも草ぼうぼうで行けませんね) 花が白いサクラタデという意味の名前ですが、サクラタデはめったに見る事ができない珍しい植物です。近くでは和歌山市の四季の郷公園の池のほとりに生えていましたが、いまでもあるのでしょうか。ピンク色でとてもきれいな花です。



柳川家と船屋の間の南の山裾にミョウガの花が咲いています。そうめんなどの薬味としてお馴染みの植物です。(野菜と言った方がいいのでしょうか?) ショウガと同じ仲間 (ショウガ科) で姿形も似ています。花が咲く前がおいしいと言われていますが、私などは、花が咲いていてもお構いなし、花びらをちぎり取って、細かく刻んでそうめんだしに入れます。大人の味とでもいうのでしょうか、なかなかオツなものです。小早川家の庭にも植えられています。でも



茎をかき分けて探しましたが、今年はまだ出てきていないようです。

松下